



大切にしたい
 家族の絆
 つながる仲間
 今年もよろしく
 お願いいたします

町民の地域への奉仕は立派な納税

町の現実

我が町は自主財源がすくなく、はつきり言って国の補助金(簡単に言えばお手当)で回っている。人々の生活は一見豊かでも地域社会として先々安心な状況には決してない。

例えば過疎法による条件を満たさなければ過疎地として有利な条件、つまり起債(簡単に言えば国からの借金)しても一定額を交付税算入(簡単に言えば国からのお手当に返済金の一部が入っている)という形で棒引きされ、実質は額面より少ない借金で色々な事業が行われる。よく聞く離島振興法の適用を受けての起債も似たようなもの。しかしいくら有利と言っても借金の全てが棒引きされるわけではない。返すべき借金は蓄積し、それらが税収より多ければ稼ぐを追い越す貧乏となる。貧乏となれば住民へのサービスは低下する。そう言う図式にある。

町民の活動は納税

借金も甲斐性というたとえもある。借金してもそれが物や仕組みとして残るなら等価との考えも成り立つ。一方、その後の維持経費をどうするかという問題がつきまとう。極端なたとえば適切でないか

震災後、変わらぬことが幸せといわれるが いま 学びと活動で町を変えたい

もしれないが、町の財政運営を家庭の家計簿として考えれば、我々がそういう家庭の構成員だとしたらどう動くだろうか。

いま町内では色々な団体や個人が、様々な活動をしている。それらの多くはこの町をもち立てるべく動いている。

ものは考えようである。これらの活動は形を変えた納税ではないのか。本来は税を使って行政が取り組まねばならぬ仕事も手薄になっている部分は多い。そのことに民間団体や個人が取り組んでいるのであれば、たとえささやかでも立派な納税だと言える。行政はそういう活動に対してしっかりと協力する義務があるということになる。

宮脇馨氏の「赤穂根学舎」

上島町岩城島の宮脇馨さんは、数年前役場職員を定年を待たずにやめ、体力のある今で無ければできないと、岩城島の隣の無人島、赤穂根島に移り住み、出身である国立帯広畜産大の理念のひとつである「実践的教育の充実」や「地域社会との連携」を実践する赤穂根学舎を興隆と立ちあげ、自給自足農業をやっている。

専門知識を生かした和牛の肥育と仔牛の生産、地鶏の平飼い

で鶏肉、鶏卵、そして自家消費用の野菜、米の生産も行っている。氏は町内の耕作放棄地の増加を憂え、その解決には地産地消と食の安全の確保ににつながる食料自給率アップが欠かせないと語る。



赤穂根島の水田で稲刈り中の宮脇馨さん

田舎で生きる意義

宮脇氏の生き方は、仕方なく田舎で生きるのではなく積極的に田舎を舞台に生きること、本来人間の生活とは何ぞやとの問いを、ややもすれば都市化への憧れで喪ってしまうことへの警鐘と共に、実現可能なひとつモデルとして大いに評価されて然るべきだろう。

氏はまた議会議員でもあり、議会毎の理事者への質問は、いかにこの町が生きて残ってゆかかの提言も含め、明快で説得力がある。残念なのは、今の理事者には彼の提言を受け町を立て直す力が無いと見えることだ。どういふ活動であれ田舎で生きる意義は、田舎である良さを守ることにあろう。(平山和昭)

あゆむ(二十)

青木喜代子

震災後、復興のシンボルとなっていた陸前高田の一本松が、とうとう保存不能となり、命を終える事を新聞で知った。あの大津波にも耐え、大地にしっかりと立っていた松を、人々はどんな思いで見ているのだろうか。

私にも一本の樹がある。と言っても歌だけだ。

出逢いは十年近く前。姉弟のシングルソングライターの美しいハーマニーで聴いた。すっかり惚れてしまい、ヘコタれた時は口ずさんでいる。作詞は、屋久島在住の長井三郎氏。

後で知った事だけど、屋久島に広がっている美しい照葉樹林の森が、国の伐採計画で危機に陥った時の「屋久島を守る会」の代表もつとめられた。

美しい詩を書く人に一度お会いしたいと思いが、三年前に叶った。普通の、選層前のおじちゃん

春 緑の雨が降る
 立ち尽くす 一本の樹
 朝の光 輝き
 萌えいづる芽に露が光る
 雨に日は 雨の歌を
 晴れの日は 晴れの歌を
 唄いながら 立ち尽くし
 樹は空をめざす



立ち尽くす
 一本の樹に

屋久島の春夏秋冬を歌っている。雨の多い屋久島の景色が目につく。
 初対面を果たした別れ際に長井さんは、「僕は岩に打ち上げられたウミガメを海にかえしてやったんです。近い内童宮への招待があるかも知れんです」と、真顔で言った。

毎月 15日
 やよみ亭
 映画 研究会



72-9188

●日時 一月十五日 日曜日
 ●場所 やよみ亭 午後七時開始
 ●参加資格 性別年齢問はず
 ●木戸銭なし。カンパ歓迎。

「一命」

1月28日～2月3日
 ①10:00～12:15
 ②18:30～20:45
 2月4日～2月10日
 ①13:30～15:45
 ②18:30～20:45



監督 三池崇
 出演 市川海老蔵、役所広司、
 瑛太、満島ひかり



【写真説明】

生名島・立石山展望台。ここから見る景観はすばらしい。視界をさえぎる樹木の散髪、腐食した木製デッキの新替、住民が力を合わせて景観を守れば、なお素晴らしい。

粗末にしていないか？ これまでに作った公園 ……

石山開発 しっかり議論しよう

あらたな観光開発
いま弓削島では「石灰山等再生プラン」という動きがある。平成一九年、石見銀山がユネスコ世界遺産へ登録されたことをうけ、県内にも別子銅山世界遺産登録を目指す動きがあるところから、かつて弓削の石灰山(石山)の石灰石が燐灘に浮かぶ四阪島の銅精錬所で使われた経緯を踏み、展望台を兼ねた観光資源にしようという目論見のようだ。すでに調査費四五〇万円が予算計上され、プラン策定委員会も開催されている。まだ具体的な内容は未定だが、噂によると頂上(かつて作業員の宿舎があったあたり)に展望台を作ろうという案もあるらしい。

過去の失敗の轍を踏むな

かつてパブル経済の頃、弓削島でもゴルフ場開発騒ぎがあった。多くの地権者の反対があった。実現しなかったが石灰山も開発検討対象だった。しかし地権者の売却提示価格が高額であったのと、土質がもろく、構造物を造るには費用がかかりすぎることで断念された経緯がある。直後にパブル経済は崩壊し我が国は長い不況に突入。その余波がいまだに続いている。そのころの弓削町では「全町公園構想」なるものもあり、島のあちこちに公園が造られた。大谷地区の桜公園もそうだし、清掃センター下の、名前が忘れたが山からの川(今は全く枯れ、公園も荒れ放題を利した公園、鯨池、三山、引野池周辺などいろいろ造った。美しい町を作り町民の癒し、観光誘致への布石として期待され造られたこれらは、その多くが放置され荒廃している。桜公園のトイレは施設され使用できないう、荒れている公園は足も踏み入れられない。

石灰山開発アンケート

昨年十一月、町が上島町全域

本土への船便 本土からの船便、それを大切に

誤ってはならぬ優先順位

美しい眺望を取り戻すべき施設、場所は弓削島に限ったものではない。合併した4島全てにそれはある。生名島立石山頂の展望台は、木製デッキが腐って危険なまままだ高井神灯台への道の管理には人手がない。しまなみ自転車ツーリズムが流行るのご時世、島に来る観光客の気質も変わってきた。そのあたりを考えたとき、この島へのアクセス(船便)をこそしっかり確保することのほうが優先されるべきではないのか。先にあらぬか同ジャンケット調査で、上島町の活性化の現状と方向性についての問いには、「本土との交通利便性」が特に重要とされている。

本土からの船便こそ目玉に

昨秋、町内のNPOが資金提供し復航させた尾道弓削直行便も、放置すれば再び航路を閉じる可能性は低くはない。過去のいきさつは置いて、今は復航したところから考えを進めるべきなのに、行政がメンツや、自分たちのやっていることを棚に上げての建前論で一切の支援策を考えず、再び航路撤退という事態にでもなれば、これはもう無策を通り越して観光開発しても無意味ということになりかねない。

観光開発とは何か
観光開発とは何だろう。この町にあっては自力で受け入れ態勢を築きつつ、よい田舎具合を磨くことに他なるまい。本土か

地震は 自信を連れて

安藤朋生 茨城県



皆様、明けましておめでとございます。昨年中は大変お世話になりました。本年もまたどうか宜しくお願い致します。皆様の健康と笑顔がいつも側にあることを祈って。

まめに連絡を取ったり、友人やご近所付き合いの大切さを再確認しようという気持ちが高まっているのです。私自身ご近所付き合いは全くないのが現状で、どう接して良いやら考えさせられます。子供会や学校行事に参加していても、どうしても上手く交友関係を広げられない、周りも第一印象で何かを決めてしまいい距離が出来ることもしばしば。この家族の絆、地域の絆を密に結ぶには、互いが寄り添わなければ成り立たないと思います。



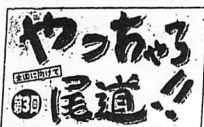
社にお参りに行く。寒い寒いと言いつつながら神社までの道を家族5人で歩く。そうやって1年が始まります。

2011年の震災の調査でもっとも多く上げられたのが、家族の絆を再確認するという声だったそうです。離れている家族にこ

私、島に行ったら大丈夫かしら。。。心配になりますが、きっと島に受け入れられると思うのよ。根拠のない自信を島に連れて行くぞー!



◆24年1月29日(日)
◆開場 12:30 開演 13:00



◆チケット 1,000円
◆場所しまなみ交流館
主催: 尾道林美美子の会
問い合わせ: レストランカフェ「おのみち美美子」
☎&Fax 0848-20-1157

尾道から全国に向けて元気
発信! 歌と踊りの芸能会